

# INTERVIEW

千葉大学大学院医学研究院診断推論学 教授  
同 医学部附属病院総合診療科 科長  
生坂政臣先生



## 大同団結して総合診療専門医制度を 確立していこう!

聞き手：山田隆司 地域医療研究所長

### ジェネラルな研修をするために米国に留学

山田隆司(聞き手) 今日千葉大学総合診療、生坂政臣先生をお訪ねしました。生坂先生は2022年7月から、日本専門医機構総合診療専門医検討委員会の第5期委員長を務められていますので、そのお話も伺いたと思います。先生はNHKの「総合診療医ドクターG」でも有名ですが、現在に至るまでの経歴を少し教えていただけますか。

生坂政臣 私は1985年に鳥取大学を卒業し、母校に残る人が多かった時代ではあったのですが、ローテート研修をしたいと考えました。当時、ローテート研修をしていた病院が少なく、沖縄県立中部病院や虎ノ門病院、聖路加国際病院な

どを受験しましたが玉砕し、東京女子医科大学病院へ行き、臓器別内科の全科ローテーションをしました。今思うと、当時からジェネラルに興味があったのですね。そしてローテート後は神経内科を選択しました。というのは、ブラックボックスのようなものに興味があって、目で見て分かるような、例えば内視鏡や画像で見て判断をするというような領域はあまり興味なかったのですね。

神経内科の研修中に将来の伴侶をみつけて、開業することになりました。妻の実家のクリニックの跡継ぎがないので、将来的に私が継ぐということで。その時は、神経内科で市中病

院に出向していましたが、やはり専門領域だけだと、クリニックを受診する患者さんをカバーできないわけですね。例えば尿閉とか、誤嚥性肺炎とか……やはりジェネラルな力が必要なので総合的に研修したいと思いました。学生時代に「医学界新聞」で伴信太郎先生の手記を読んだことがあって、総合的な家庭医の研修が記憶にあったので、どこかで総合診療の研修を受けようと思いましたが、国内にみつけることができなかったため、それならと海外に目を向けて留学することにしました。

**山田** 海外へ行くためにはECFMGの試験も受けなければいけなかったわけですね。

**生坂** それで、当時みんなが使っていた朝倉の内科学には病態生理がほとんど書かれていなかったのです。それで私は「セシル (Cecil Textbook of Medicine)」を読んだのです。セシルにはものすごい量のpathophysiologyが解説されていて、私はそれを読むのが楽しくて、学生時代は講義にあまり出ずに、試験はセシルのpathophysiologyの部分の読破で対応したんです。なので留年したのですが(笑)。ECFMGの試験も病態生理を問うものが多かったため、その試験の勉強が楽しくて、私はすでに資格だけは持っていたのです。

**山田** そうだったのですね。

**生坂** はい。それでアイオワ大学に臨床留学しました。

**山田** アイオワ大学はどうやってみつけたのですか。

**生坂** 義父の後輩がアイオワ大学で麻酔科の教授をやっていて、推薦状を書いてくれたのです。100くらい出して返信がきたのがアイオワを含めて4件くらいだったので、その4つを携えて渡米しました。でもアイオワ大学病院がぶっ

ぎりで良かったので、大胆にもランクリストにはアイオワ大学しか載せませんでした。マッチしたときの連絡が、たしか国際電話だったと思うのですが、人生で最も嬉しかった瞬間のひとつです。

**山田** 3年のコースですか？

**生坂** 3年のコースです。大学病院内にあるクリニックがベースのプログラムですが、市中病院や映画で有名になったマディソン郡の隣のブーン郡のへき地にも行きました。

**山田** へき地では入院から外来まで、なんでもやらなければいけないようなところだったのですね。

**生坂** はい。指導医が大腸ファイバーもやるので、私もそこで初めて大腸ファイバーを経験しました。たまたまだったのかもかもしれませんが、担当したアメリカ人患者は全員大腸がストレートだったので、回盲部まで15分ぐらいで到達して、「大腸カメラって簡単なんだ」と思いました。帰国してやったら難易度が高くてびっくりしましたが、そんな感じで、アッペのオペもするし、とにかく何でもやるというDr.コトーのような医者が、米国にはどこにでもいるわけです。それがfamily physicianの一つの形でした。

**山田** 先生が目指していたfamily physicianの研修ができたわけですね。米国の研修でいろいろな健康問題をカバーして、子どもから大人まである程度対応できるという自信を持ってましたか。

**生坂** 自信に満ちていました。帰国の飛行機で、「どなたかドクターいらっしゃいませんか？」というドクターコールを願うような気持ちでした(笑)。実は以前、新幹線に乗っていてドクターコールがあったんですよ。内科はできるつもりだったので立ったけれど、妊婦や赤ちゃんだったらどうしようという不安で、そのままトイレ